

0

ZERO?

高校生世代も、
実は医療費がかからないって本当？

A・本当（市が負担しているからです）



飛騨市 こども医療費助成制度

Medical Subsidy for Children

医療費助成のしくみ

飛騨市では令和2年度より高校生世代への医療費助成をスタートしています。助成方法は“償還払い”といって、医療機関の窓口で一旦支払いをした後、市へ申請することで払い戻す仕組みとなっています。

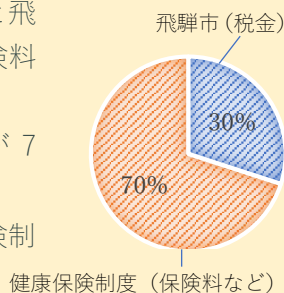
Q.なぜ、高校生世代の医療費は無料なの？

A.保険料と税金で賄われているからです。

医療費はみなさんが加入している健康保険制度と飛騨市がそれぞれ負担しています。財源は健康保険料や税金等です。

例えば総医療費が1万円の場合、健康保険制度が7千円、市が3千円を負担しています。

※未就学児の場合はこの割合が異なり、健康保険制度が8割、市が2割の負担となります。



知っていますか？

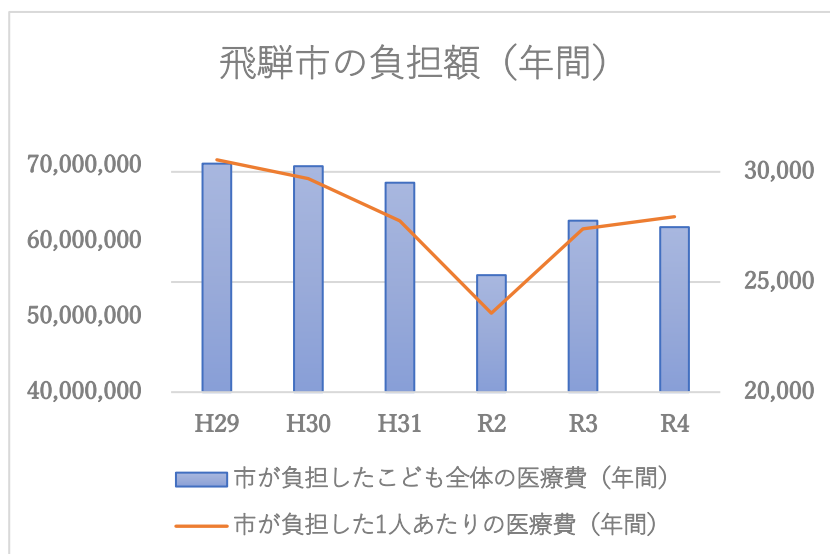
- 医療費無料は当たり前ではありません
- 子どもたちの健やかな成長を願う市民の思いが形になった政策です
- 持続可能な制度にしていく必要があります
- 医療費削減のためにできることがあります

Q.飛騨市の負担ってどれくらいなの？

A.年間6～7千万円です。

平成29年～令和4年の実績で、飛騨市がこどもの医療費を負担した金額は6～7千万円。令和2年～4年は高校生世代へも医療費助成を拡大しましたが、コロナ禍による受診控え等の影響もあり負担は減少しました。コロナ禍が明けた令和5年中は医療費が膨らみました。インフルエンザの流行も伴い、受診件数が増加したことが要因です。

また、一人当たりの医療費は年間で2～3万円の負担となっており、増え続けると制度の維持が難しくなってしまいます。



Q.高校生世代は、なぜ払い戻し制度なの？

A.市の方針だからです。

この世代は、医療費の一時負担を通して、様々なことを学ぶ“大人の準備期間”と捉えています。上記でお話した税金の話や制度維持のためにどういった行動が必要なのか等、“知る機会”、“考える機会”のきっかけにして、飛騨市で健やかに成長してもらいたい、というメッセージが込められています。そういった観点から、お子様ご自身で申請いただくことも大歓迎です。

Q.医療費削減のためにできることは？

A.下記5つのことを意識しましょう

1. かかりつけ医をもち、かかりつけ薬局を1つに絞りましょう
2. 診療時間内に受診しましょう
3. 重複受診はやめましょう
4. 薬は正しく使いましょう
5. 後発医薬品（ジェネリック医薬品）を利用しましょう